

SMBCグループの経営戦略

2020年10月1日



証券コード	8316
単元株数	100株
株価*	2,917.5円

* 2020年9月30日現在

本日のアジェンダ

I

新型コロナウイルス感染症への対応 // 3

II

SMBCグループの特長・強み // 6

1. 圧倒的なグループ総合力 7
2. 収益性・効率性 8
3. 質の高い資産・健全な資本基盤 9
4. 安定した業績推移 10
5. 累進的に配当を増加 11

III

SMBCグループの成長戦略 // 12

1. 私たちを取り巻く環境 13
2. 私たちの目指す姿 14
3. 中期経営計画の重点戦略 15
4. コスト削減への取組 20
5. SMBC Group GREEN×GLOBE2030策定... 21

IV

株主還元の強化 // 22

1. 資本政策の基本方針 23
2. 株主還元 24

V

ご案内 // 25

ご参考資料 // 27



I. 新型コロナウイルス 感染症への対応

新型コロナウイルス感染症への対応 ①ステークホルダー

世界的な危機を乗り越えるべく、ステークホルダーのみなさまを全力でサポートしてまいります

お客さま

- SMBCの国内全支店・ATMの営業を継続
- 緊急の資金需要への対応



個人

- 特別金利や当初1年間無利息等でのローン提供
(SMBC、SMBCコンシューマーファイナンス、
三井住友カード)

法人

- 日銀による特別オペレーションを活用した支援ファンド
 - サプライチェーンマネジメントファンド : 6,000億円
 - 新型コロナウイルス対策特別ファンド : 4,000億円
- 信用保証協会保証や自治体制度を活用した融資
- 新規借入・条件変更等への柔軟な対応
 - ビジネスセレクトローンの取扱手数料免除
 - 審査プロセスや条件変更の柔軟化
- 医療系ベンチャー等をサポートする投資ファンドの立ち上げ

従業員

- テレワーク・スプリット運営の推進
- 支店・オフィスの感染予防の徹底
- 問診メールによる健康状態の把握
- メンタルケア相談窓口設置



地域・社会

- 医療、教育・福祉、文化芸術活動を支援
(寄付総額15億円)
- SMBC at Homeプロジェクト
 - ネットバンキングの取引に応じた寄付



新型コロナウイルス感染症への対応 ②デジタル・リモートニーズ

デジタル・リモートにおける先進性を活かして、お客さまのニーズの高まりに迅速に対応

SMBCダイレクト利用者数

2020年4月 前年同月比 + 36%増



ウェブでのビジネスマッチングサービス

参加企業数 約5千社に拡大*1

- チャット機能を使ってネット上で商談可能

月間商談件数500件超*1



印鑑が不要な電子契約事業の利用件数

2020年3月 → 8月 30倍増



SMBC SMBCクラウドサイン

予約来店サービス全店導入





Ⅱ. SMBCグループの特長・強み

1. 圧倒的なグループ総合力

SMBCグループは、各業界トップクラスの企業で構成

三井住友銀行 (SMBC)



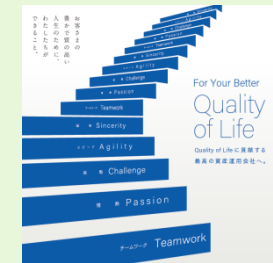
SMBC日興証券



三井住友カード



三井住友DS アセットマネジメント



SMBC信託銀行



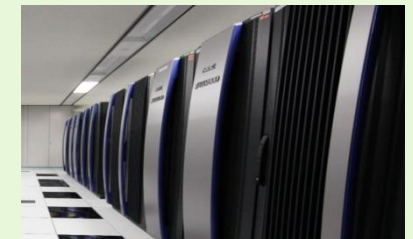
三井住友 ファイナンス&リース



SMBCコンシューマー ファイナンス



日本総合研究所

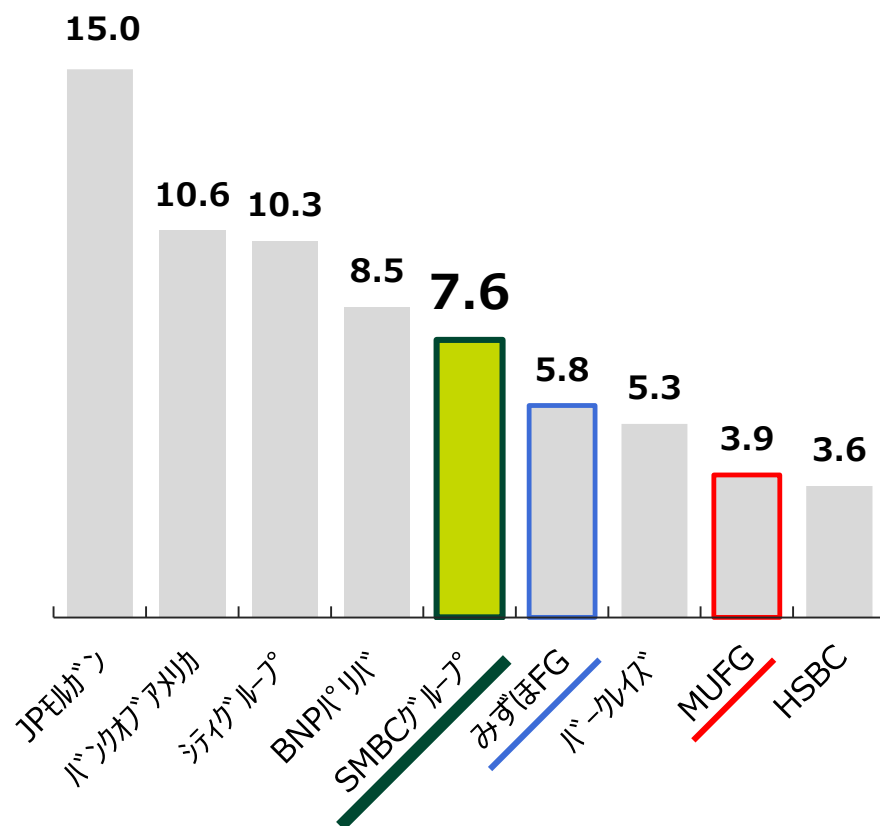


2. 収益性・効率性

世界的に見ても、良好な収益性・効率性

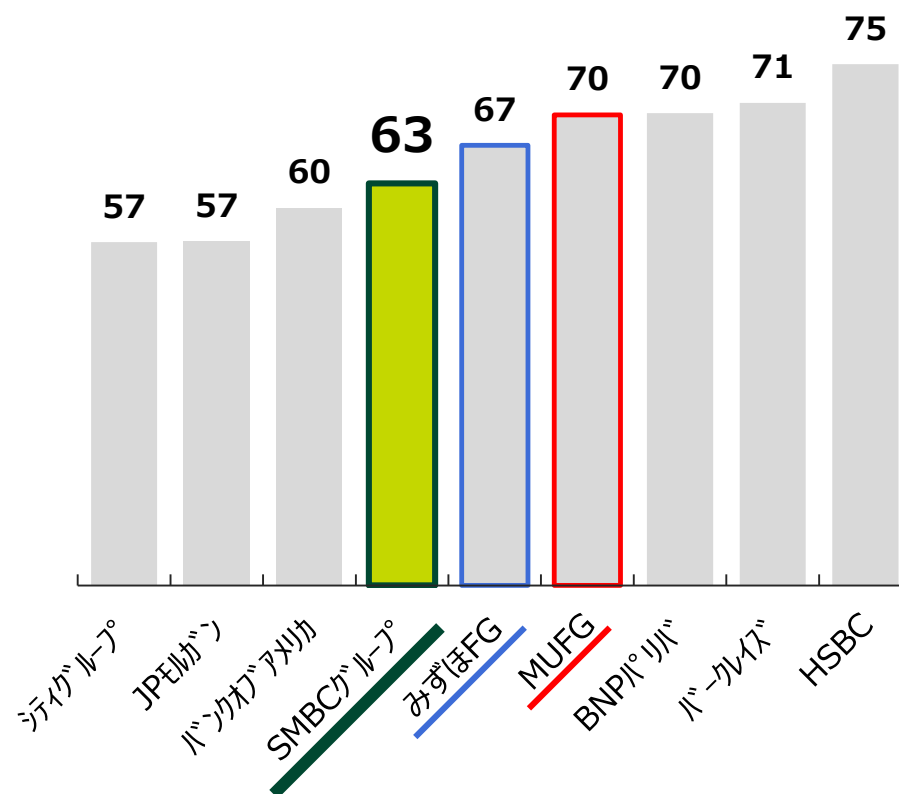
ROE*1

(%)



経費率*2

(%)



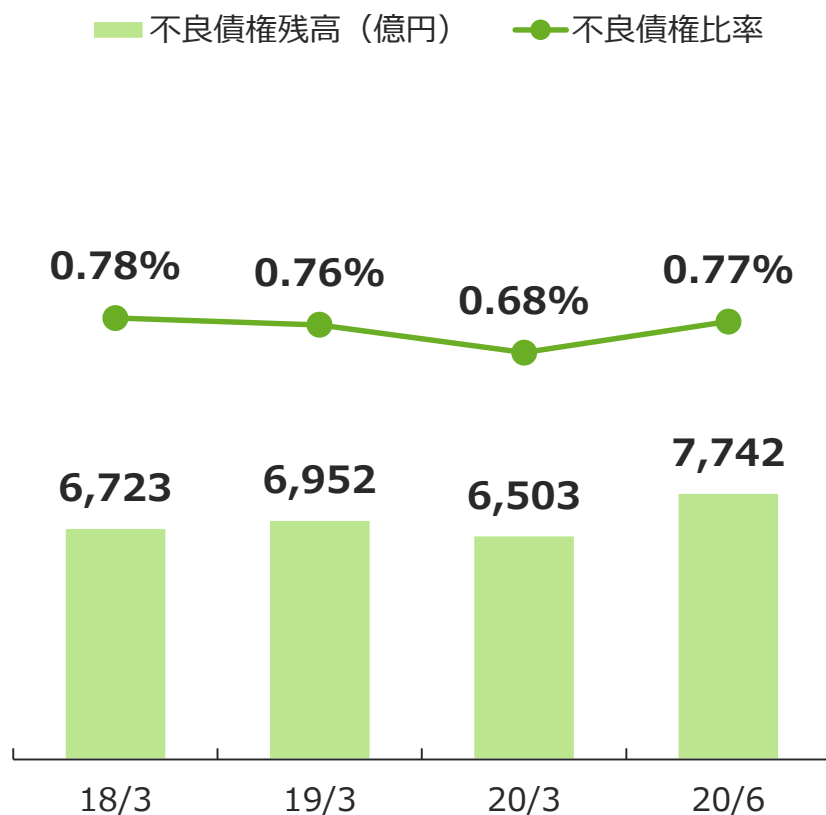
*1 各社公表データに基づく。SMBCグループ、みずほFG、MUFGは2019年度実績、その他は2019年1-12月実績

*2 営業経費（邦銀は傘下銀行の臨時処理分を含む）をトップライン収益（保険契約に基づく保険金及び給付金純額を除く）で除したものの

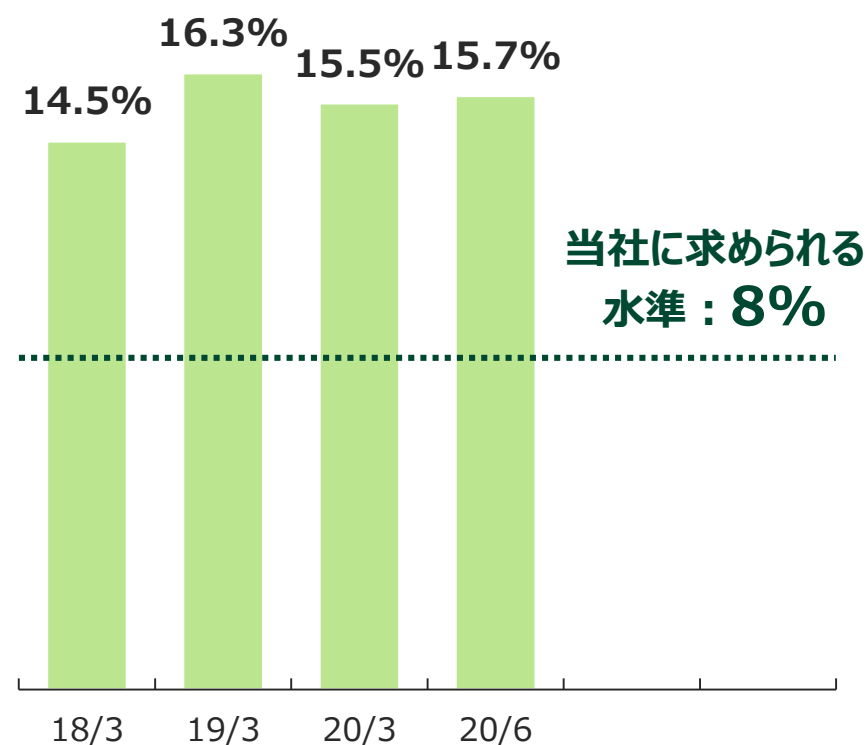
3. 質の高い資産・健全な資本基盤

低水準の不良債権比率、十分な自己資本を維持

不良債権残高・比率



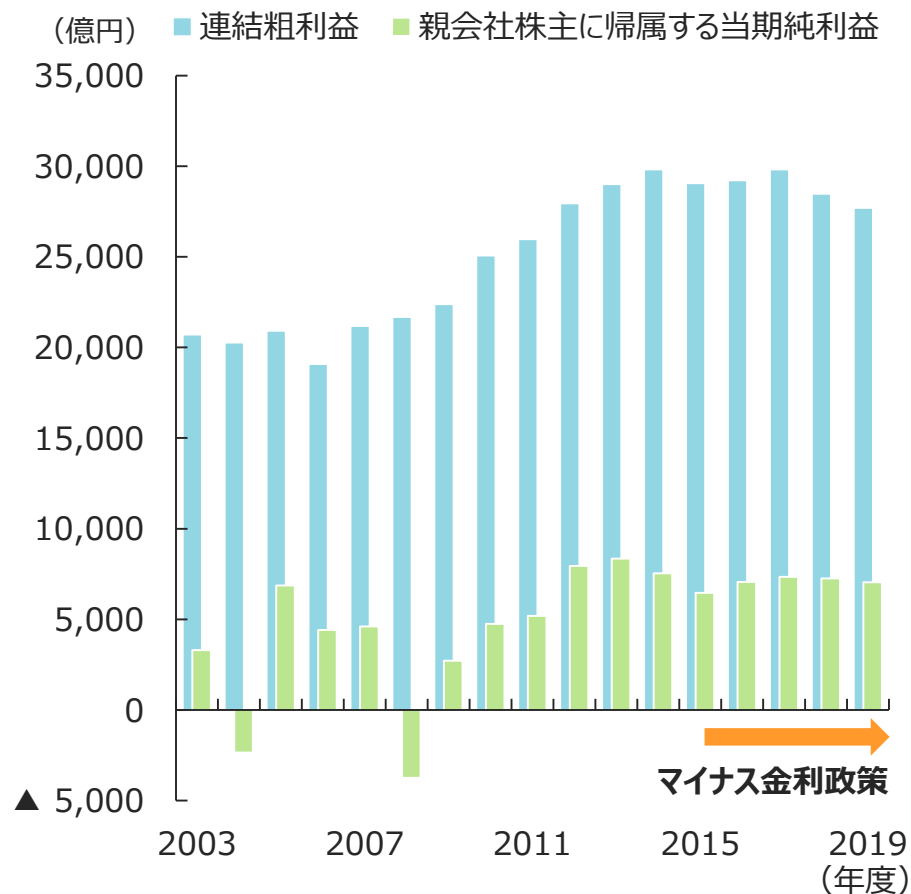
普通株式等Tier1比率（完全実施基準）



4. 安定した業績推移

収益源の多様化を図り、マイナス金利政策導入後も安定した収益を計上

業績推移



連結粗利益の内訳

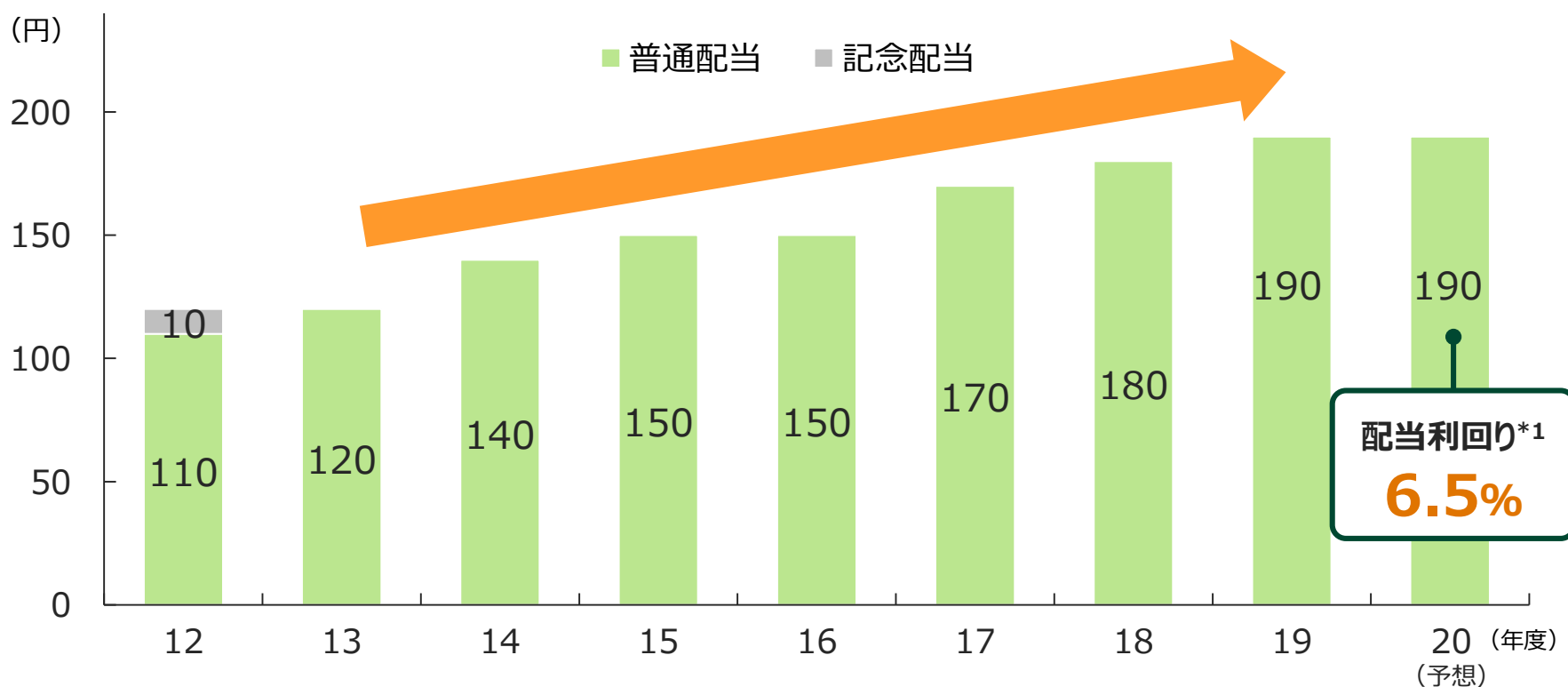
	2002 年度	2019 年度
SMBC以外の グループ会社	18%	40%
海外ビジネス (SMBC)	5%	22%
国内貸出金・ 預金関連収益 (SMBC)	35%	15%

5. 累進的に配当を増加

累進的配当、すなわち「減配せず、配当維持もしくは増配」する方針

先行き不透明なコロナ影響下においても
19年度：増配 20年度：据置

1株当たり配当



配当性向*2

21%	20%	26%	33%	30%	33%	35%	37%	65%
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----



Ⅲ. SMBCグループの成長戦略

1. 私たちを取り巻く環境

新型コロナウイルス以前から、金融業界は厳しい業務環境に直面

超低金利の長期化
・グローバル化

グローバル化の
進展

米中貿易摩擦
・Brexit

新型コロナウイルス
感染症

異業種の参入・
競争環境の激化

デジタル技術の
進化

金融ニーズの
高度化・多様化

気候変動への
対応

ビジネスモデルも絶えざる進化が必要

2. 私たちの目指す姿

中長期ビジョン

最高の信頼を通じて、お客さま・社会とともに発展する
グローバルソリューションプロバイダー

3つの方向性

1 情報産業化

2 プラットフォーマー

3 ソリューションプロバイダー

新中期経営計画

基本方針

事業戦略

Transformation

既存ビジネスのモデル改革

Growth

新たなビジネス領域への挑戦

経営基盤

Quality

あらゆる面での質の向上

3. 中期経営計画の重点戦略

(1) 資産運用ビジネスのサステナブルな成長

効果的かつ効率的なコンサルティング活動により、個人のお客さまの幅広い資産運用ニーズに対応

新サービスブランド立ち上げ

SMBC
Private Wealth

SMBC日興 プライベートウェルス戦略部

グループサービスを集約し、
お客さま対応力を強化

資産運用

承継
ソリューション

非金融
サービス

プロダクト／ソリューション

SMBC日興	SMBC	SMBC信託
株式・債券・ 投信	預金・保険・ 資産承継	外貨・信託・ 不動産

アプリを活用したパーソナライズドマーケティング

アプリの使い方・便利な機能



お客さまの
取引履歴等から
パーソナライズされた
情報を表示

知ると面白いお金のはなし



3. 中期経営計画の重点戦略

(2) キャッシュレス決済戦略の加速

事業者、利用者双方の利便性を向上し、キャッシュレス決済ビジネスを推進

事業者のキャッシュレス化をサポート

Square



stera

GMOペイメント・ゲートウェイ社、
VISA社と連携



利用者の多様な商品ニーズへ対応

ポイント特化型プラチナカード

PLATINUM PREFERRED

プラチナ プリファード

プラチナステータスと
圧倒的なポイント還元。



Visa LINE Pay クレジットカード



LINE Pay X SMBC 三井住友カード

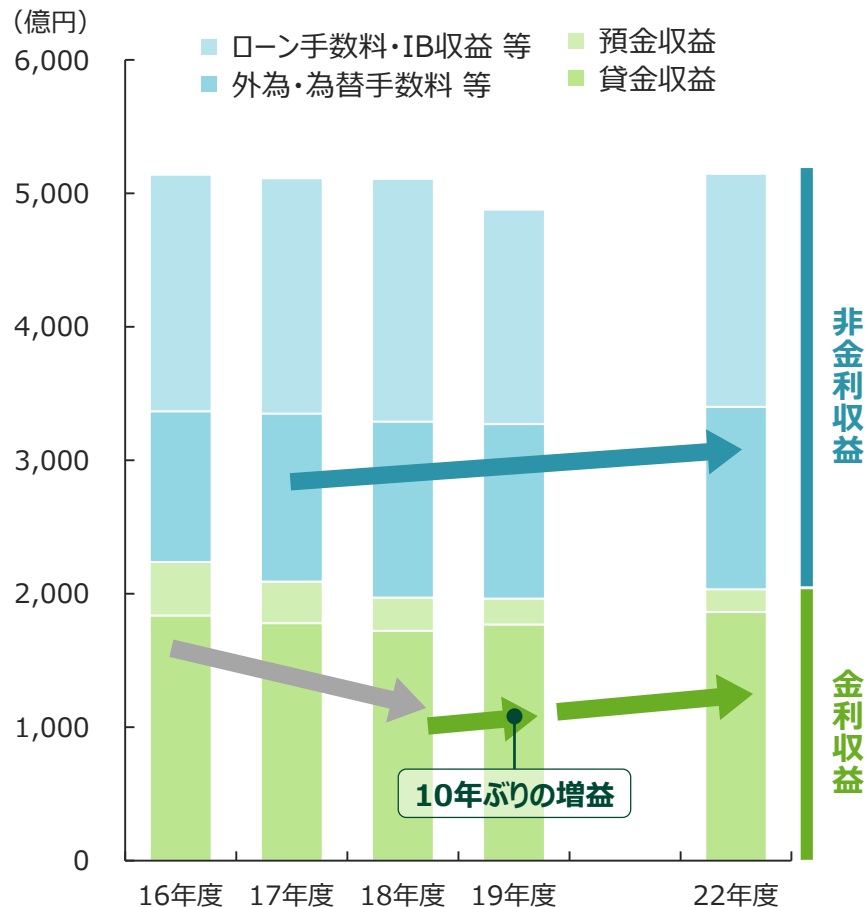
3. 中期経営計画の重点戦略

(3) 法人のお客さまへのソリューション強化

Transformation & Growth

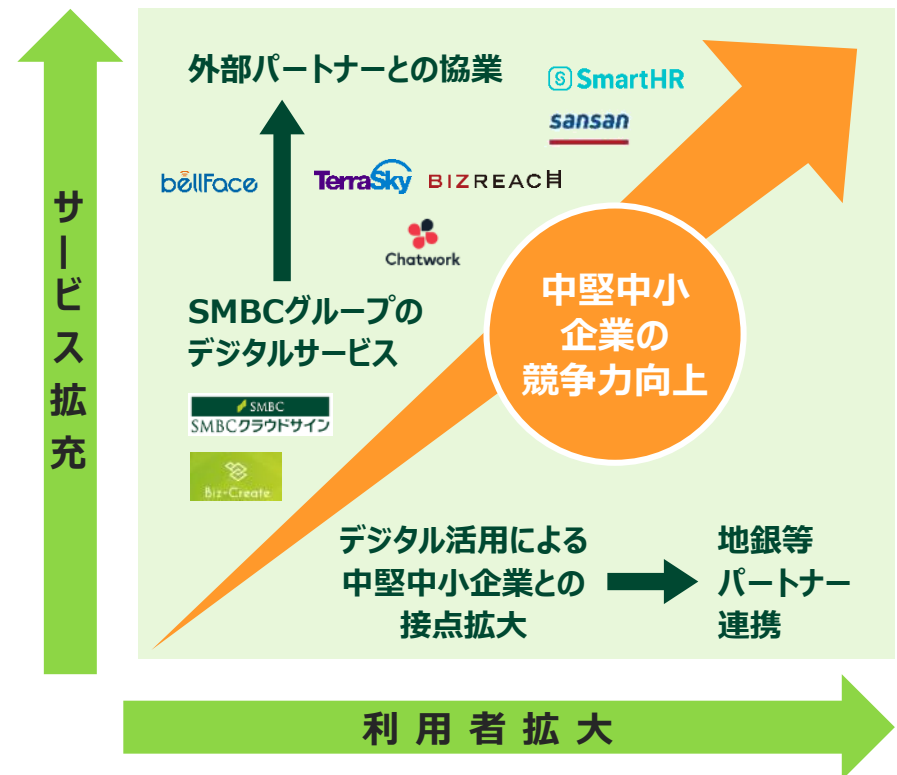
従来のビジネスに加え、デジタルを活用した新しいビジネスモデルにも挑戦し、安定的な収益拡大を目指す

収益構造の転換^{*1}



法人向けデジタルプラットフォーム

PlariTown



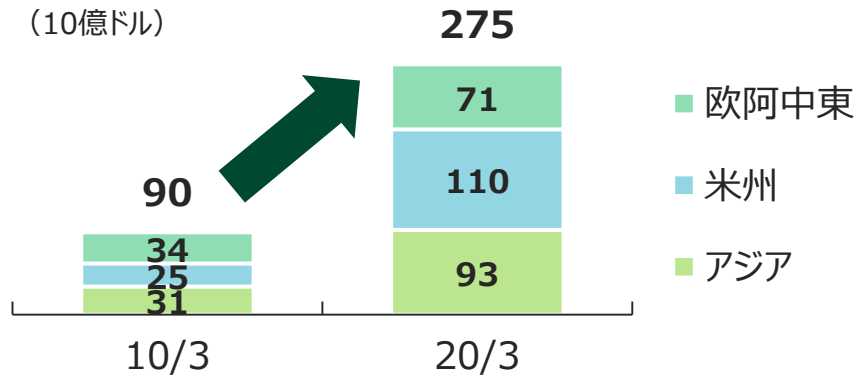
^{*1} ホールセール部門 (SMBC)

3. 中期経営計画の重点戦略

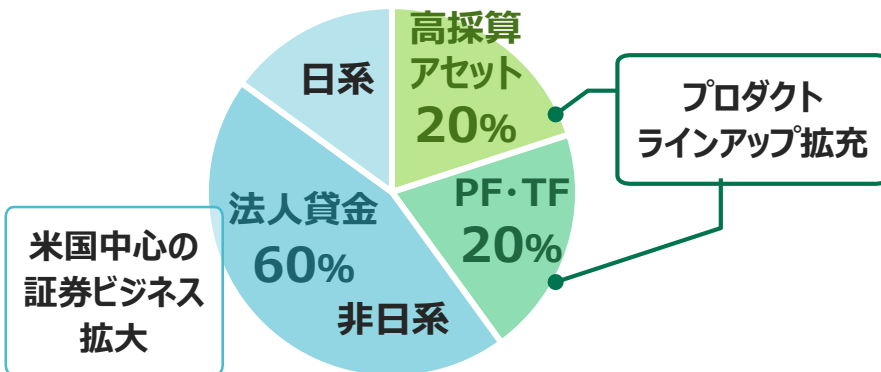
(4) 海外ビジネスの成長・収益強化

SMBCグループの強みを活かして、資産・資本効率の高いプロダクト取引を推進

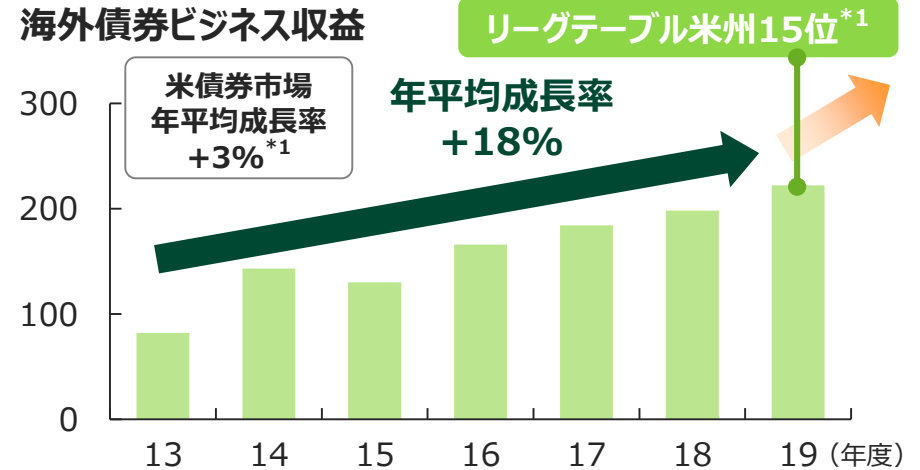
海外貸出金



グループの強みを活かしたクロスセルの推進



プロダクト取引実績



PF (プロジェクトファイナンス)

PFI誌：
"Global Bank of the Year"^{*2}



TF (トレードファイナンス)

IFC : "Best Green Trade Partner Bank"^{*2}等



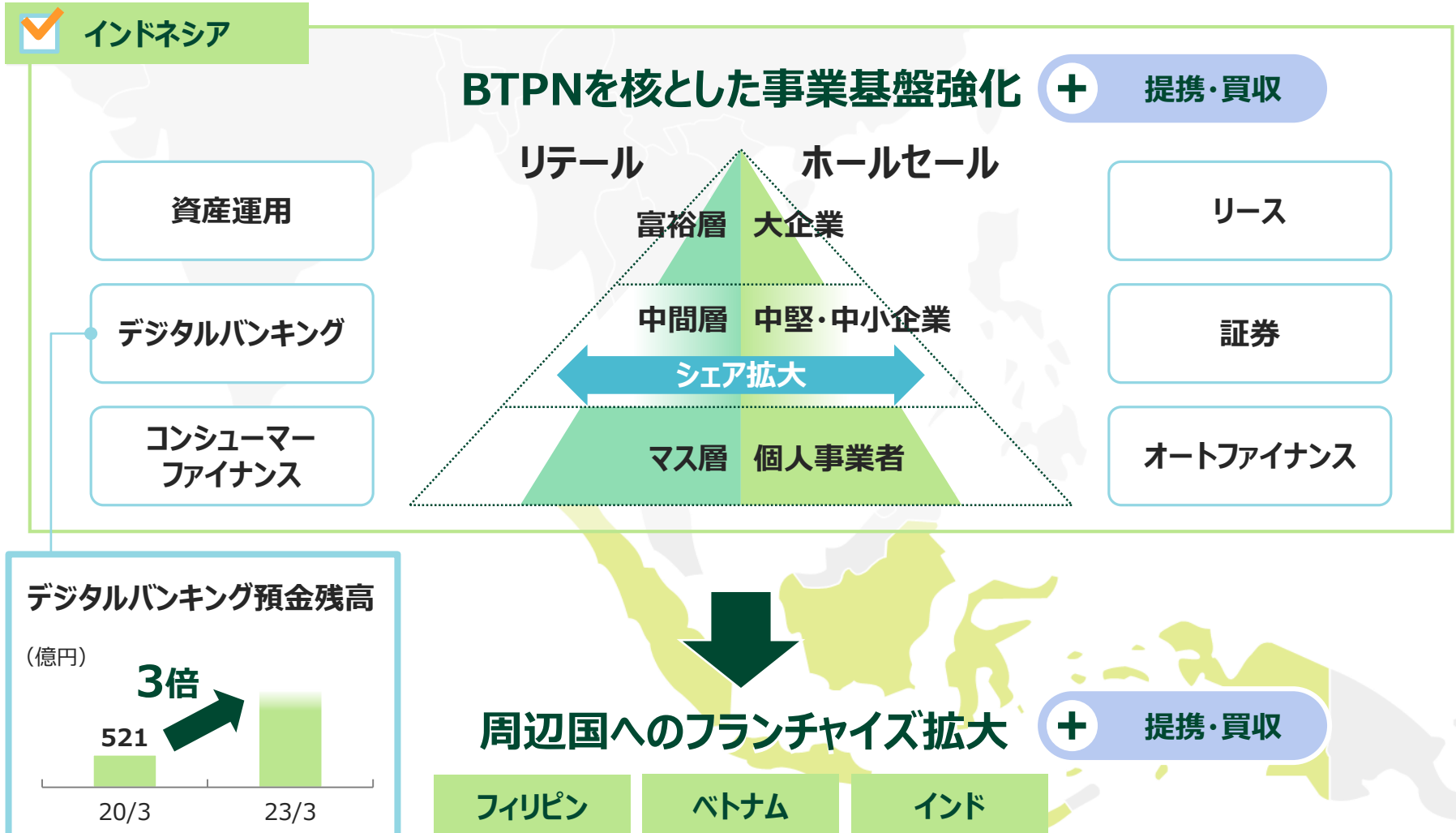
^{*1} 出所：REFINITIV (2019年4月～2020年3月) 米投資適格債引受額リーグテーブル
^{*2} 2019年受賞

3. 中期経営計画の重点戦略

(5) アジア：マルチフランチャイズ戦略

Transformation & Growth

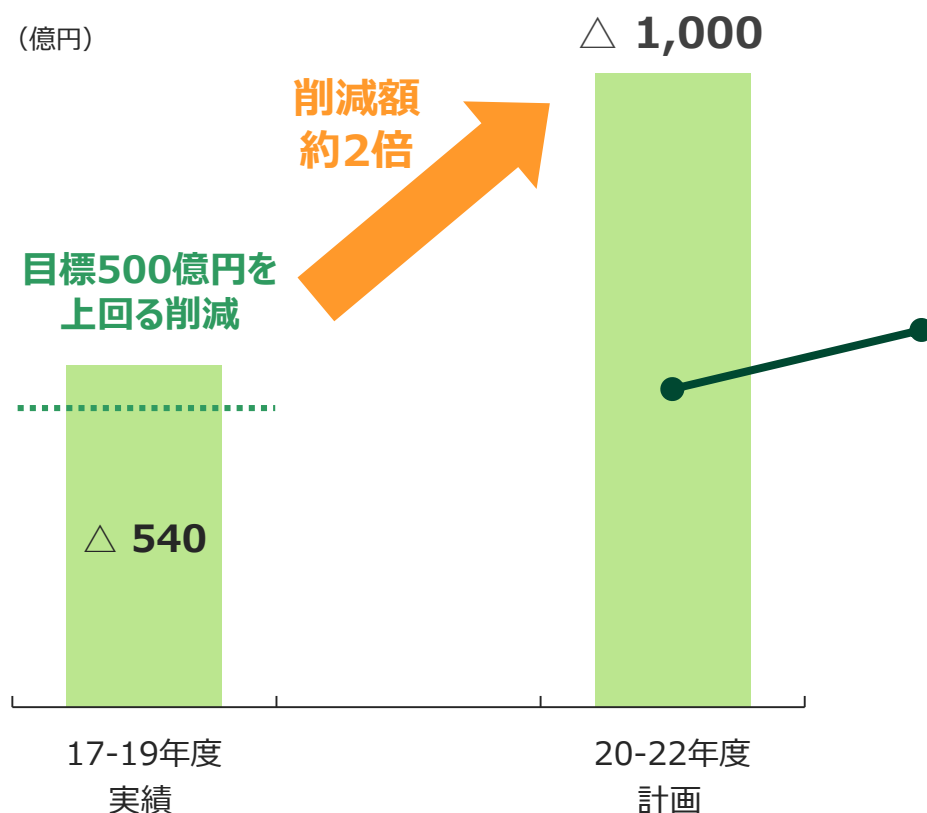
インドネシアでBTPNを核とした事業を展開するとともに、周辺国へのフランチャイズ拡大を検討



4. コスト削減への取組

中期経営計画（20-22年度）の3年間で、1,000億円のコスト削減を目指す

コスト削減計画



① 国内のビジネスモデル改革

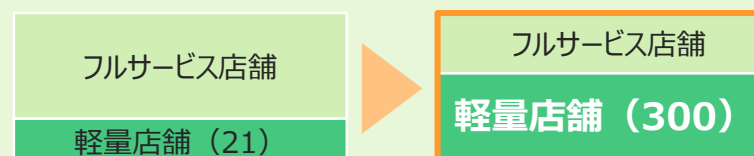
△500億円

- リテールビジネスモデル改革
- 国内法人の戦力再配置
- 本部人員△3割削減

② リテール店舗改革

△250億円

- 個人コンサルティングに特化した軽量店舗の増加
計438拠点



③ グループベースの業務集約

△250億円

- 三井住友カード・SMBCコンシューマーファイナンスの豊洲移転・本部機能一体化
- アセットマネジメント事業の統合効果
- データセンターや基盤システム共通化

5. SMBC Group GREEN×GLOBE 2030策定

サステナビリティ宣言

SMBC Group
GREEN × GLOBE 2030

を策定し、サステナビリティの推進加速を表明



SMBC Group

GREEN



GLOBE



2030

グリーンファイナンス

KPI 2030年までに**10兆円**

CO₂削減

KPI 2030年までに△**30%削減**

再生可能エネルギー



環境設備導入



グリーンボンド
引受



ESG/SDGs
評価型融資



国内の4本部ビル

電力を**100%**
再生エネルギーに転換



IV. 株主還元の強化

1. 資本政策の基本方針

健全性確保、株主還元強化、成長投資をバランスよく実現

株主還元は、配当を基本とするが、健全性確保を前提に、自己株取得も機動的に実施



2. 株主還元

配当は累進的、すなわち「減配せず、配当維持もしくは増配」する方針

コロナ影響による先行き不透明な環境下でも、2019年度は増配を実現・2020年度も配当維持を見込む

	19年度 (実績)	前年比	20年度 (予想)
1株当たり配当	190円	+10円	190円
配当性向	37%	+2%	65%
自己株取得	1,000億円	+300億円	—
総還元性向	51%	+7%	—
親会社 株主純利益	7,039億円	▲228億円	4,000億円

配当利回り*1
6.5%

*1 2020年9月30日株価および配当予想で算出



V. ご案内

当社のウェブサイト

当社ウェブサイト、個人投資家の皆さまに向けたコンテンツを掲載



①「株主・投資家の皆さまへ」をクリック

個人投資家の皆さまへ

SMBCグループの特長・取組を
分かりやすくご説明しています



SMBC Group Report 2020

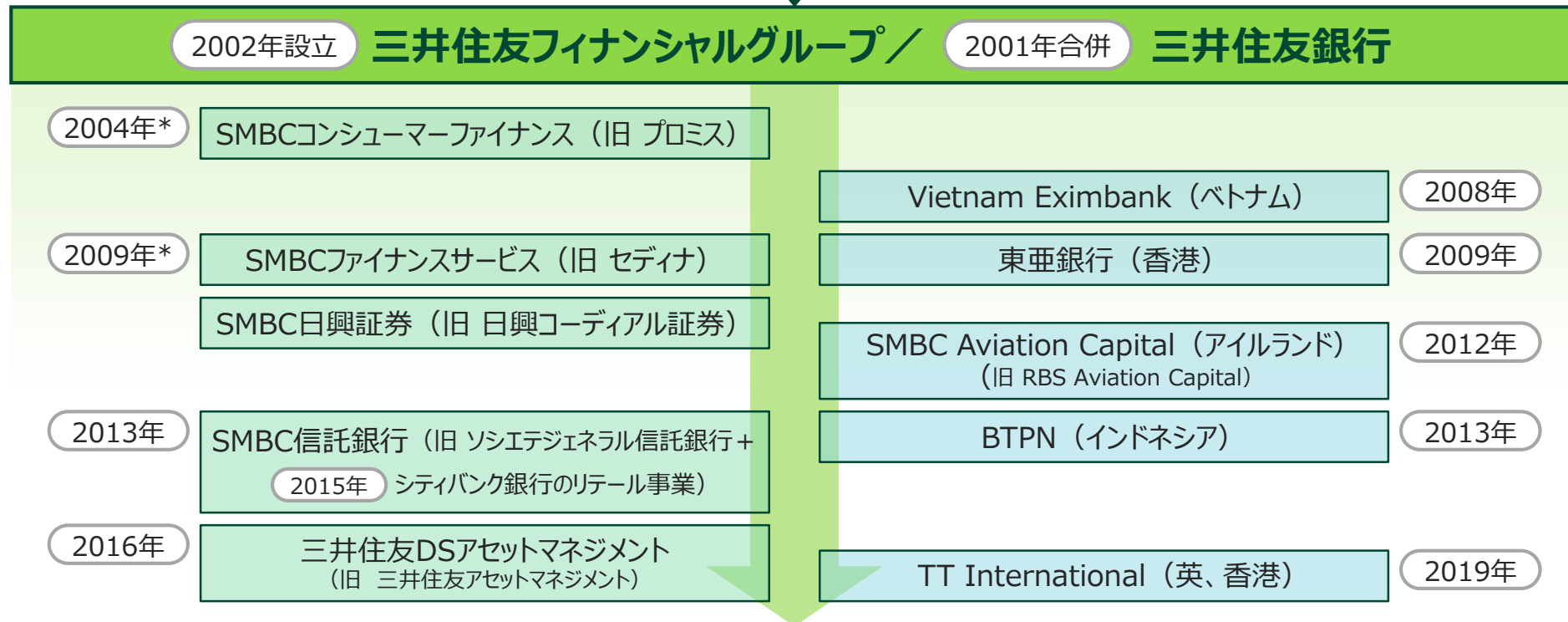
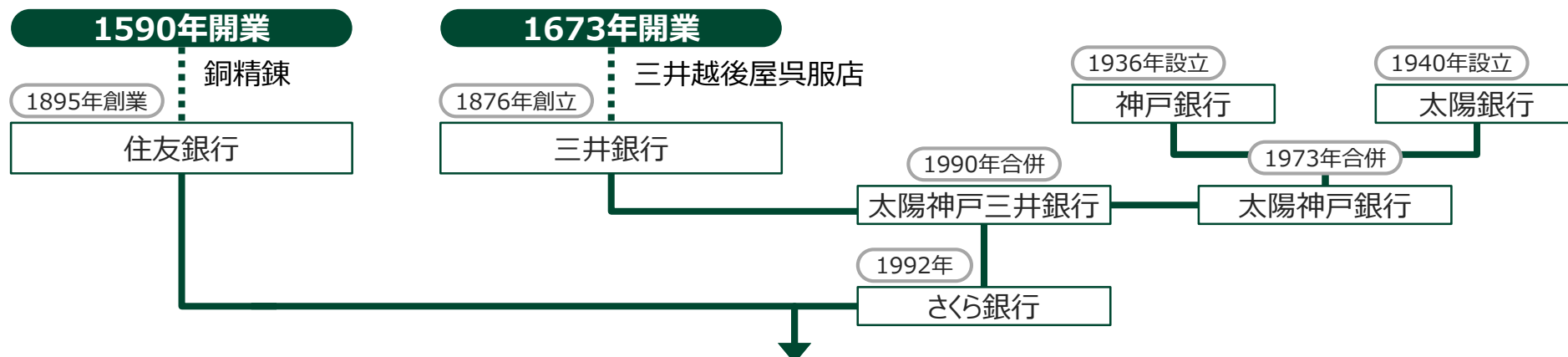
経営陣からのメッセージ等
最近の取組についてご説明しています





ご参考資料

SMBCグループの沿革



決算の概要

連結P/L

(億円)	19年度	20年度 目標	上期目標
連結粗利益	27,686		
営業経費	▲ 17,396		
持分法投資損益	561		
連結業務純益	10,850	9,700	4,200
与信関係費用	▲ 1,706	▲ 4,500	▲ 3,000
株式等損益	805		
その他	▲ 628		
経常利益	9,321	5,500	1,300
親会社株主純利益	7,039	4,000	1,000

主要グループ会社

(億円)	SMBC	SMCC	SMBC日興 ^{*2}
業務粗利益	14,120 +164	4,200 +118	3,201 ▲30
経費	▲8,081 △35	▲3,281 ▲228	▲2,718 △43
業務純益	6,040 +199	924 ▲110	483 +12
当期純利益	3,174 ▲1,600	382 +849 ^{*1}	352 +41

	SMBCCF	SMBC信託	三井住友DS ^{*4} 50%
業務粗利益	2,744 +59	495 ▲3	351 +93
経費	▲1,139 ▲30	▲486 △32	▲320 ▲141
業務純益	1,605 +29	9 +28	31 ▲47
当期純利益	901 +451 ^{*3}	▲328 ▲290	9 ▲43

(持分法適用)

	SMFL ^{*5} 50%
業務粗利益	1,830 ▲25
経費	▲847 △36
業務純益	1,011 +19
当期純利益	612 ▲188

(左：19年度実績、右：前年比)

*1 前年に計上した完全子会社化に伴う課税の反動

*2 SMBC日興の海外持分法適用関連会社（SMFGの連結子会社）の利益を含まない *3 税効果計上額増加に伴うもの

*4 前年比は大和住銀投信投資顧問の前年の利益を含まない *5 内部管理ベース

新型コロナウイルス感染症による業績影響（１）

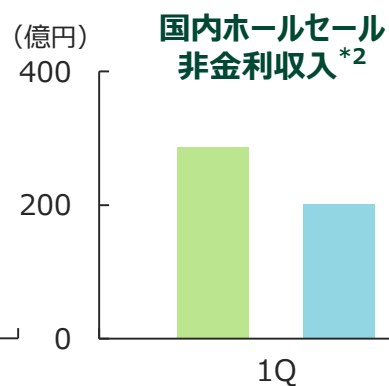
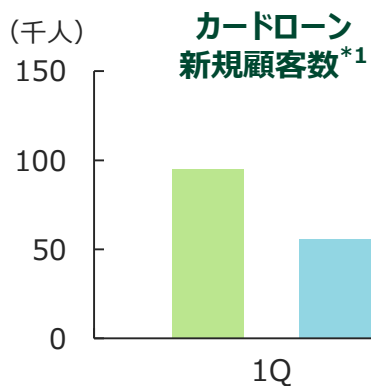
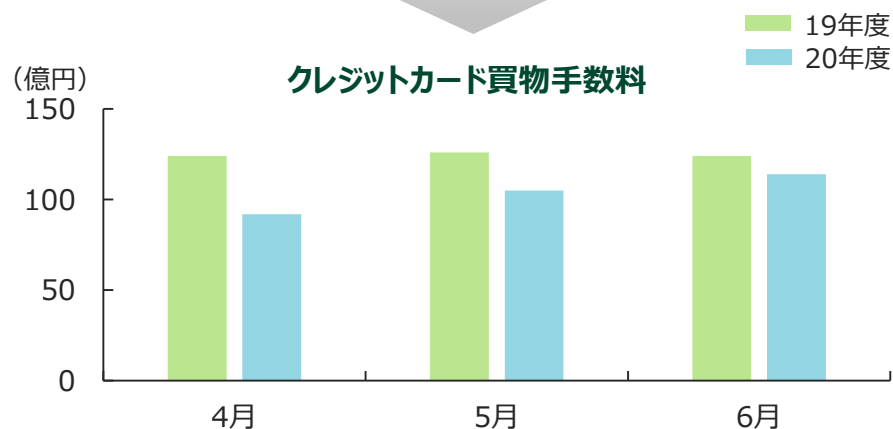
業務純益減少、与信関係費用増加等のP/L影響に加え、貸出増加によって資本運営にも影響

(億円)		19年度実績		20年度予想			
			COVID-19影響	20年2月時点	見直し後	COVID-19影響	ポイント
P/L	連結業務純益	10,850	▲500	11,400	9,700	▲1,700	資産運用ビジネス下振れ等、マーケティング部門における対顧取引の影響等
	与信関係費用	▲1,706	▲400	▲1,900	▲4,500	▲2,600	国内外のマクロ環境、個社状況等を加味し、クレジットコスト増
	株式等損益	805	▲230	—	—	—	—
	特別損益	▲434	▲400	—	—	—	—
	親会社株主純利益	7,039	▲1,100	7,100	4,000	▲3,100	
資本運営	リスクアセット (CET1比率の増減)	86.4兆円	+1兆円 (▲0.1%)	87兆円	92兆円	累計 +5兆円 (▲0.5%)	国内外のお客さまに対する貸金増

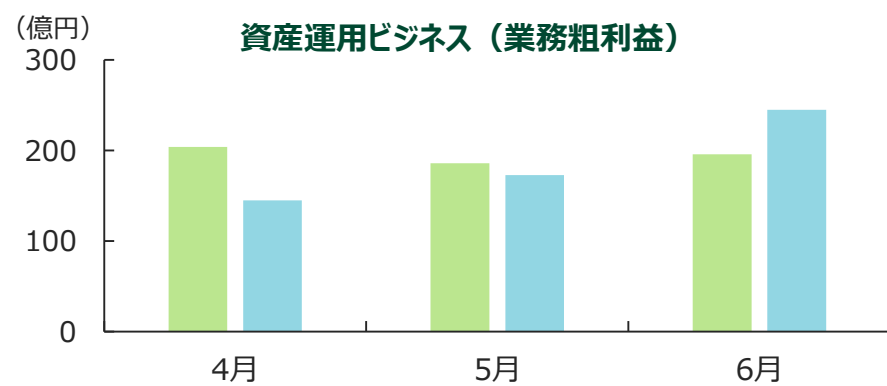
新型コロナウイルス感染症による業績影響（2）

クレジットカード買物手数料やカードローン新規顧客数、ホールセールの非金利収入は前年同期比で減少
一方、海外証券ビジネスは増収の他、資産運用ビジネスも復調トレンド

消費・企業活動の停滞



起債ニーズの高まり
株式市場の堅調推移



*1 SMBCコンシューマーファイナンス

*2 シンジケーション、ストラクチャードファイナンス、不動産ファイナンス、証券

バランスシート・1株あたり情報

連結B/S (2020/3月末)

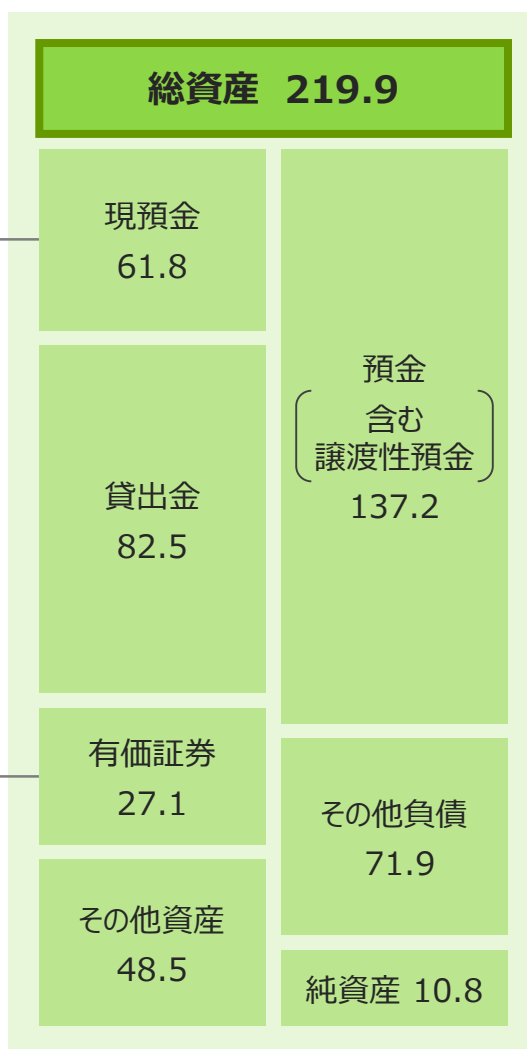
(兆円)

- 日銀当座預金残高 (SMBC) 48.7兆円

(その他有価証券)

- うち株式 2.7兆円
- うち国債 7.1兆円
- うち外国債券 11.6兆円

預貸率 60.1%



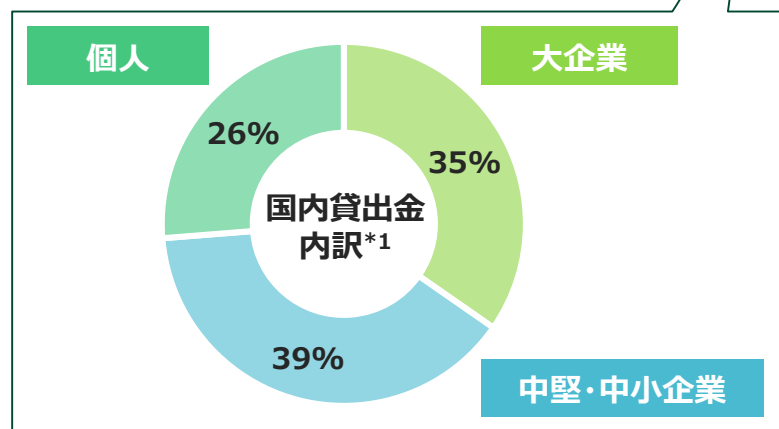
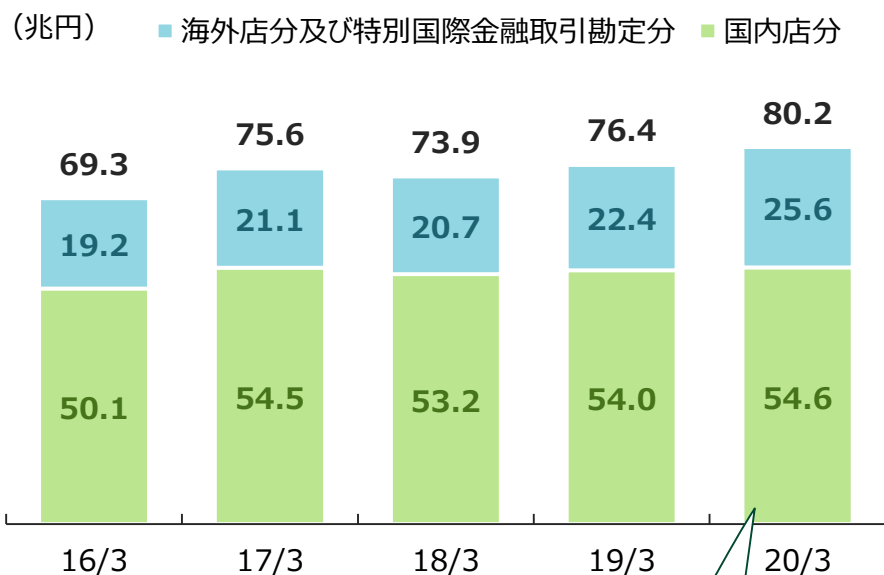
1株あたり情報

	19年度 実績	前年比	20年度 予想
当期純利益	511.87円	▲8.08円	292.07円
配当	190円	± 0円	190円

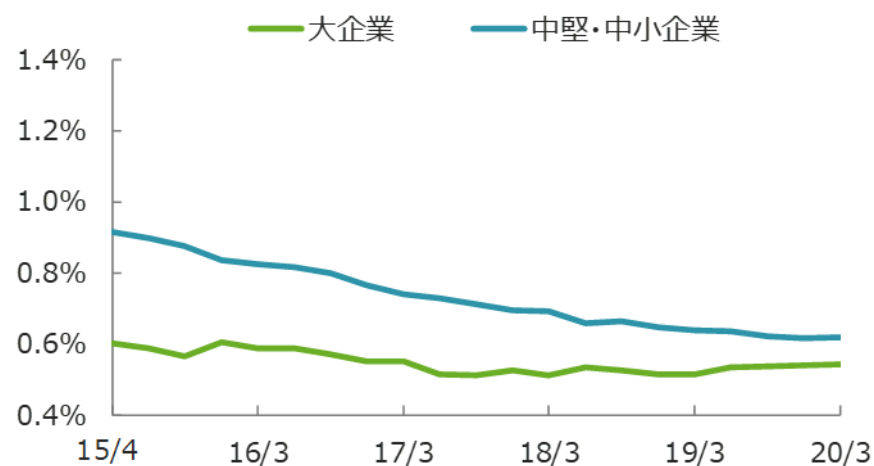
	20/3月末	19/3月末比
純資産	7,827.50円	+111.59円

貸出金

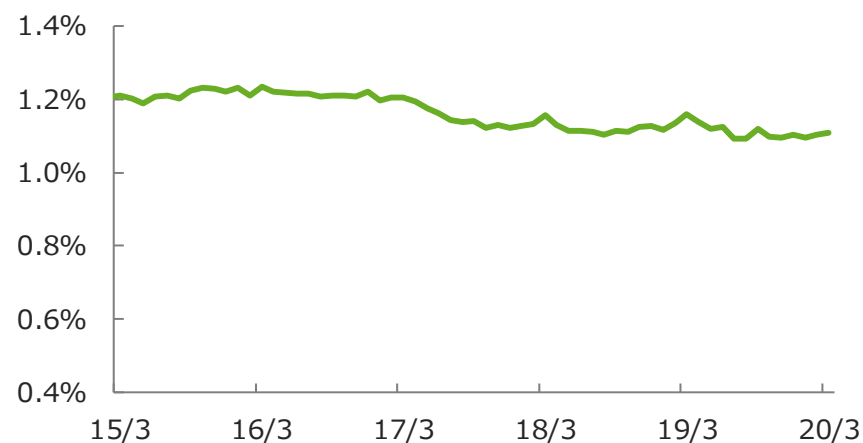
貸出金残高 (SMBC単体)



国内法人向け貸出金スプレッド (SMBC単体) ^{*1,2}



海外貸出金スプレッド^{*1,3}



外部からの評価

外部格付

	SMFG		SMBC	
	(長期)	(短期)	(長期)	(短期)
Moody's	A1	P-1	A1	P-1
S&P	A-	—	A	A-1
Fitch	A	F1	A	F1
格付投資情報センター (R&I)	A+	—	AA-	a-1+
日本格付研究所 (JCR)	AA-	—	AA	J-1+

ESGインデックスへの組入れ



外部評価



株価推移





本資料には、当社グループの財政状態および経営成績に関する当社グループおよびグループ各社経営陣の見解、判断または現在の予想に基づく、「将来の業績に関する記述」が含まれております。多くの場合、この記述には、「予想」、「予測」、「期待」、「意図」、「計画」、「可能性」やこれらの類義語が含まれますが、この限りではありません。また、これらの記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものであり、実際の業績は、本資料に含まれるもしくは、含まれるとみなされる「将来の業績に関する記述」で示されたものと異なる可能性があります。実際の業績に影響を与えるリスクや不確実性としては、以下のようなものがあります。国内外の経済金融環境の悪化、保有株式に係るリスク、不良債権残高および与信関係費用の増加、当社グループのビジネス戦略が奏功しないリスク、合併事業・提携・出資・買収および経営統合が奏功しないリスク、海外における業務拡大が奏功しないリスクなどです。こうしたリスクおよび不確実性に照らし、本資料公表日現在における「将来の業績に関する記述」を過度に信頼すべきではありません。当社グループは、いかなる「将来の業績に関する記述」について、更新や改訂をする義務を負いません。当社グループの財政状態および経営成績や投資者の投資判断に重要な影響を及ぼす可能性がある事項については、本資料のほか、有価証券報告書等の本邦開示書類や、当社が米国証券取引委員会に提出したForm 20-F等の米国開示書類、当社グループが公表いたしました各種開示資料のうち、最新のものをご参照ください。